

コラム  
『識字とは?』



「識字」とは、日常生活で用いられる簡単で短い文章を理解し、読み書きや計算をする能力のことを指します。また広くは、その能力を日常的に活用することで、自己実現や社会の発展に貢献できる状態を含みます。識字は継続的な学びのための基礎であり、同時に基本的人権のひとつとみなされています。また、識字は個人のみならず社会にも大きな利益をもたらすものと考えられます。



読み書きができないと…

買い物の時に人にだまされてしまう。  
家の外に出ることが不安で怖い。  
子どもの学校で配布される資料が理解できない。



読み書きができると…

より多くの情報にアクセスできる。  
家庭と商売をより効率的に管理できる。  
家庭の外でも自信が持てる。

読み書きの力で女性に力を!

カンボジアのSMILEプロジェクトは個人と企業の皆さまからの寄附によって支えられています。  
アジア太平洋の女性を応援するためのご支援をお願いします。

郵便振替口座：00120-7-365298  
口座名義：ACCU アジアの女性識字振興募金  
※ACCUは公益財団法人ですので、寄付金控除の対象となります。

■ ACCUについて

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU: Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO) は、ユネスコ (国際連合教育科学文化機関) の基本方針に沿って、アジア太平洋地域諸国における文化の振興と相互理解に寄与することを目的に、1971年に設立されました。ACCUは、持続可能な未来を構築することを目標に、ユネスコとユネスコのパートナーであるアジア太平洋諸国のNGOと連携し、様々な地域で文化と教育の分野において先駆的な活動を行っています。

■ CWDAについて

カンボジア女性開発協会 (CWDA: The Cambodian Women's Development Association) は、1993年に設立された非営利組織 (NGO) です。教育や保健の分野を中心に、カンボジアの女性の自立を支援し能力向上に資する事業を広く展開しています。



識字クラス



ライフスキル学習



学習キット



読書コーナー



# SMILE ASIA

## in Cambodia

Quality of Life and Happiness for Women and Children

読み書きの力で、私たちの世界が広がります。







1970年代以降、カンボジアは数十年間にわたる政情不安と内戦を経験しました。その間に経済的および社会的基盤は大きく後退し、教育分野は人的資源においても壊滅的な打撃を受け、その影響は、1990年代から現在に至るまで、カンボジア社会全体の速やかな復興を阻む大きな要因となっています。カンボジアには基礎教育を受ける機会を奪われ、基本的な読み書きを習得できないまま成人となった人々が240万人存在し、そのうちの70%が女性だといわれています\*1。また最新の統計データによると、15～24歳の女性の12.7%が、35～44歳の女性の22.6%が一度も就学を経験したことがありません。一方で、子どもの教育や健康状況は、親、特に母親の影響を大きく受けることがこれまで多く指摘されています。言い換えれば、女性が読み書き能力を身につけると、その子どもを含めた家族全体、さらには未来の世代の教育と健康状況の改善が見込めるということです。

# “SMILE”

## SMILE ASIAプロジェクトとは？

SMILEプロジェクトは、妊婦さんや小さな子どもを育てている女性を対象とした識字学習支援プロジェクトです。具体的には、読み書き計算や保健に関わる知識、ライフスキル学習の機会を提供することで、女性のエンパワーメントを促進し、更には家庭と地域の教育・保健環境をより良くしていくことを目指しています。カンボジアでは2008年に開始し、2017年までに55の村で1,220人以上の女性がSMILEに参加しました。

**S**upporting  
**M**aternal and Child Health  
**I**mprovement and Building  
**L**iterate  
**E**nvironment



### カンボジア基礎情報 ※2

- 総人口：1,540万人 (2015)
- 一人当たりGDP：1,036 USドル (2013)
- 初等教育粗就学率：119.2% (2013)
- 初等教育純就学率：97.3% (2013)
- 若者(15～24歳)識字率：女性 92.6% 男性 91.9% (2015)
- 成人(15歳以上)識字率：女性 75.0% 男性 86.5% (2015)
- 妊産婦死亡率：206(出生数10万当たり) (2013)
- 5歳未満児死亡率：54(出生数1,000当たり) (2013)

\*1 UNESCO Institute for Statisticsより2017年9月取得(カンボジアの最新データは2009年当時のもの)  
\*2 National Institute of Statistics, Cambodia Socio-Economic Survey 2015, 2016. Ministry of Planning, National Strategic Development Plan 2014-2018, 2014.



お母さんが学ぶことで、家族が変わり、地域が変わる。



SMILEプロジェクトは、国連が設定する「持続可能な開発目標 (SDGs)」、なかでも目標4 (教育) と目標3 (健康と福祉) に貢献しています。

### 私たち女性を健康で強くしてくれました

2016・17年ファシリテーター、村長

私が9歳の時、内戦が起こり学校に通うことができなくなりました。それでも、学ぶことを決して諦めず、学校以外の場でも勉強を続けました。時には夜にろうそくの光だけで勉強したこともあります。現在、私は識字クラスのファシリテーターを務めて2年目を迎え、教えることに以前よりも自信が出てきました。また、村長として、SMILEの学習者たちが学んだことを家庭でも実践していることを、とても誇りに思っています。識字クラスを私たちのために開き、私たち女性を健康で強くしてくれたSMILEに感謝しています。



ベン・ユンさん 58歳

### 村に貢献できるようになりました

2017年学習者

読み書きや計算ができないことで多くの問題を抱えていた私は、識字クラスのことを知ったとき、とても嬉しくてすぐに参加することを決めました。SMILEが始まると、私は同級生の中から先生のアシスタントに選ばれました。現在は、毎回のクラスへの学習者の招集、ミーティングの開催、衛生環境の維持等の責任を与えられています。読み書きの勉強だけでなく、自分の村に貢献する素晴らしい機会を与えてくれたSMILEに感謝しています。



チュン・ボブさん 39歳、4児の母

### 教育の大切さに気づきました

2013年学習者

SMILEプロジェクトが私の村で終了した後、限られた教材しかない状況で学び続けることの難しさを感じました。でも、クラスで学んだことを忘れずに日々実践し、更に商売を大きくできるように努めてきました。何より、SMILEの識字クラスに参加したことで教育の大切さに気づき、娘には学校で学び続けるよう促しました。そして娘は現在、高校に通っています。今の私の願いは、読み書きを学び続けるためにSMILEがまた私の村で再開されることです。



キム・ソウンさん 39歳、2児の母

### ビジネスが出来るようになりました

2009年学習者

私は、両親の仕事を手伝うために3年生の時に学校を辞め、SMILEの識字クラスに参加するまでの約20年間、読み書きを習う機会が全くありませんでした。SMILEでは、読書コーナーにある本をすべて読んで一生懸命学び、そのおかげで、魚やチーズや野菜などの保存に関わる商売を始めることができました。今では、プノンベン多くの市場に卸売りするビジネスへと発展し、子どもを私立の学校に通わせられるほどです。自分で請求書を作成したり、収益の計算をしたりすることもできます。SMILEが私にこのような機会を与えてくれ、家族を幸せにしてくれたことに深く感謝しています。



エル・アディカスさん 37歳、2児の母